

## 全商協会からのお知らせ

# 学習指導要領改訂に伴う 各種検定の今後の方向について

全国商業高等学校長協会 公益財団法人全国商業高等学校協会  
理事長 森田 聖一

平成 25 年度より実施される新学習指導要領に向けた各種検定試験の今後の方向性については、全商協会の Web サイトを始めとして各所にて先生方にお知らせをしておりますが、特にお問い合わせの多い「簿記実務検定」、「情報処理検定」及び新設の「ビジネスコミュニケーション検定試験」につきましては、この場をお借りし、あらためて先生方にお知らせいたします。

## 新学習指導要領に対応した全商簿記実務検定試験の移行について（案）

平成 25 年度から施行される新学習指導要領に伴い、全商簿記実務検定について、下記のスケジュールで実施いたします。

3 級、2 級については、平成 24 年 3 月の全国簿記教育研究協議会において、出題範囲表と勘定科目表の案を提示し、平成 25 年 3 月の全国簿記教育研究協議会において、新出題範囲表と新勘定科目表を決定させていただきます。なお、平成 25 年度第 77 回検定から、新学習指導要領に伴う検定試験を実施

いたします。

会計、原価計算については、平成 25 年 3 月の全国簿記教育研究協議会において、出題範囲表と勘定科目表の案を提示し、平成 26 年 3 月の全国簿記教育研究協議会において、新出題範囲表と新勘定科目表を決定させていただきます。なお、平成 26 年度第 79 回検定から、新学習指導要領に伴う検定試験を実施いたします。

		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
		72 回	73 回	74 回	75 回	76 回	77 回	78 回	79 回	80 回	81 回
		平成 23 年 6 月	平成 24 年 1 月	平成 24 年 6 月	平成 25 年 1 月	平成 25 年 6 月	平成 26 年 1 月	平成 26 年 6 月	平成 27 年 1 月	平成 27 年 6 月	平成 28 年 1 月
現行検定	3 級	→ ○				—	—	—	—	—	—
	2 級	→ ○				—	—	—	—	—	—
	会計	→ ○				—	—	—	—	—	—
	原価計算	→ ○				—	—	—	—	—	—
新検定	3 級	出題範囲表（案） 勘定科目表（案） の提示		出題範囲表勘定科目 表の提示		—	○	→			
	2 級	出題範囲表（案） 勘定科目表（案） の提示		出題範囲表勘定科目 表の提示		—	○	→			
	会計			出題範囲表（案） 勘定科目表（案） の提示		出題範囲表 勘定科目表 の提示		—	○	→	
	原価計算			出題範囲表（案） 勘定科目表（案） の提示		出題範囲表 勘定科目表 の提示		—	○	→	

# 情報処理研究部の今後の方向と検定等の変更について

## I. 情報処理研究部全般に関して

### 1. 平成 25 年度からの主な変更点

- ・ 情報処理検定 3 級の実技試験の実施
- ・ ビジネス情報部門 2 級のデータ提供開始
- ・ ビジネス情報部門 1 級の実技試験の廃止
- ・ ビジネス情報部門 1 級の筆記試験の問題構成の変更
- ・ プログラミング部門の問題構成の変更
- ・ プログラミング部門の選択言語の変更

### 2. 検定基準改訂による新検定実施までの日程

今年度は Web 発表の遅れもありましたが、平成 25 年度より情報処理検定のすべての級で、新学習指導要領に対応するために改訂した新検定基準による出題を実施します。

新検定基準の詳細について、次のような日程と方法でアナウンスします。情報処理検定の変更内容について確認をお願いします。また、全国の先生から貴重なご意見をいただければと考えております。

#### ①情報教育 58 号／平成 24 年 4 月発行

- ・ 新検定基準の級別出題範囲の原案を発表
  - ・ 平成 25 年度からの情報処理検定の出題例を掲示
- これらの新検定基準の原案と出題例によって、各県での講習会の開催をお願いします。

ただし、今回の出題例は新検定基準による問題内容と出題形式について提示するものです。同等の出題を保証するものではありません。

#### ②全商 Web 発表・情報ニュース 51 号

- ・ 新検定基準の級別出題範囲の最新原案を発表
- 変更がある場合には、全商 Web または情報ニュースにおいて最新情報を発表していきますので、確認をお願いします。

#### ③情報教育 59 号／平成 25 年 3 月発行

- ・ 新検定基準の級別出題範囲確定版を発表
  - ・ 平成 25 年度からの新傾向の出題例を提示
- 来年度の情報教育で発表する出題例は、平成 25 年度以降に出題する、新傾向の問題内容や出題方式を提示します。

### 3. プログラミング部門の内容について

#### ①流れ図の表記の変更

流れ図の表記を Until ループから、While ループに変更します。

これによってループの始端の表現が「～になるまで」や「～まで」から、「～の間」に変更になります。これについての詳細は、出題例でご確認ください。

#### ② COBOL の廃止

COBOL に関しては、27 年度から廃止します。つまり、COBOL の出題は平成 26 年度までになります。これについては反対意見も多くいただいておりますが、今後の情報教育の方向性を考えたうえでの決定ですので、他のプログラミング言語への対応をお願いします。

#### ③ Java の導入

新言語として導入する Java については、オブジェクト指向に関する内容が、高校生の検定試験としてハードルが高いことに配慮し段階的な出題を行っていきます。

#### ④マクロ言語への名称変更

「イベント駆動型 Basic」を「マクロ言語」へ名称変更します。これは「マクロ言語」の検証を Excel マクロで実施することによる変更となります。

### 4. 情報処理検定試験 1 級の実施時間について

平成 24 年度に実施する第 47 回、第 48 回検定では、今年度に引き続き、プログラミング部門 1 級の実施時間を 9:00～10:00 に指定します。

平成 25 年度の第 49 回検定からは、実施時間を次のように指定します。

ビジネス情報部門 1 級 9:00～10:00

プログラミング部門 1 級 10:20～11:20

これは Web を利用した問題漏洩を未然に防ぐ目的で行うものです。また、今年度からプログラミング部門 1 級の実施時間を指定しましたが、試験会場校においては試験当日の運営上の問題点が指摘されています。今後は試験日程や実施方法の工夫による問題の解決が必要になります。今後とも公正公平な検定試験の運営のために、ご協力をお願いいたします。

## 5. Web による情報の共有について

情報処理研究部では全商 Web を利用し、過去の検定問題、新傾向問題の出題例、緊急用 Web を利

用した問題の訂正など、検定試験に関する情報の共有を行っています。

定期的に全商 Web を閲覧して最新の情報を得るようにしてください。

## II. 新検定基準による問題構成と配点（平成25年度から）

### ビジネス情報部門 1級

NO	内容	配点		ページ数
【1】	用語理解	10点	2点×5	1
【2】	用語理解	10点	2点×5	
【3】	用語理解	10点	2点×5	
【4】	データベース	15点	3点×5	2
【5】	表計算・単問形式	15点 8点	3点×5 4点×2	2
【6】	表計算 ・背景あり、ストーリー	32点	4点×8	4

※【5】【6】の配点・ページ数については、今後も検討予定

### ビジネス情報部門 2級筆記問題

NO	内容	配点		ページ数
【1】	用語理解	15点	3点×5	1
【2】	用語理解	15点	3点×5	
【3】	用語理解	15点	3点×5	
【4】	データベース	15点	3点×5	1
【5】	表計算・単問形式	20点	4点×5	1
【6】	表計算・背景あり	20点	4点×5	1

### ビジネス情報部門 2級実技問題

実技	表計算・実務を想定	100点	2
----	-----------	------	---

### 3級筆記問題

NO	内容	配点		ページ数
【1】	用語理解	15点	3点×5	1
【2】	用語理解	15点	3点×5	
【3】	用語理解	15点	3点×5	
【4】	表計算・単問形式 (知識・操作・グラフ)	35点	3点×5 4点×5	2
【5】	表計算・背景あり	20点	4点×5	1

※【1】～【4】前半で2ページ

【4】後半, 【5】で2ページの問題を作成

### 3級実技問題

実技	表計算・実務を想定	100点	2
----	-----------	------	---

### プログラミング部門 1級

NO	内容	配点		ページ数
【1】	用語理解	10点	2点×5	1
【2】	用語理解	10点	2点×5	
【3】	用語理解	10点	2点×5	
【4】	流れ図・定型的	15点	3点×5	1
【5】	流れ図・背景あり	15点	3点×5	1
【6】	流れ図・背景あり	15点	3点×5	1
【7】	選択：プログラミング	25点	5点×5	2

### プログラミング部門 2級

NO	内容	配点		ページ数
【1】	用語理解	10点	2点×5	1
【2】	用語理解	10点	2点×5	
【3】	用語理解	10点	2点×5	
【4】	トレース	15点	3点×5	1
【5】	流れ図・定型的	15点	3点×5	1
【6】	流れ図・背景あり	15点	3点×5	1
【7】	選択：プログラミング	25点	5点×5	2

## 新検定「ビジネスコミュニケーション検定試験」について

本協会では、新検定「ビジネスコミュニケーション検定試験」の第1回を、平成25年の7月4日曜日に実施することとしました。

古今東西、ビジネス活動においては人と人との関係性が極めて重要であることは言を俟たないところです。実際に平成23年9月に日本経済団体連合会から発表された「選考時に重視する要素」の調査においても、採用時に重視する能力のトップに、「コミュニケーション能力」（他者とコミュニケーションを上手に図ることができる能力）が挙げられています。

また、新高等学校学習指導要領（以下新指導要領）においても、教科「商業」では、科目「ビジネス基礎」「ビジネス実務」「広告と販売促進」等において、職業人として求められる倫理や、経済社会の一員としての望ましい心構えを身につけさせ、ビジネスの諸活動に適切に対応できる能力と態度を育てることが求められています。

そこで本協会では、生徒が学校から実社会へとスムーズに入ることができるように、社会人が身につけておくべきコミュニケーションに関する基本的な知識やマナーを高校生段階で学習するための一助となるべく、本検定試験を導入することとしました。

つまり、本検定試験の目的は、高校生のビジネスマナー及びコミュニケーションに関する知識及び能力を検定することにより、生徒の経済社会における有為な職業人としての資質を高めることにあります。

以上のことを踏まえ、私たちは、本検定試験の内容・構成を検討するうえでの基本方針として、次の点を掲げました。

- (1)実際のビジネスマナーを想定した、生徒の実務的なコミュニケーション能力の向上
- (2)新指導要領で示された教科「商業」に即した学習内容の担保
- (3)商業関連学科以外の高校生が受験することを想定したうえでの工夫

まず、(1)についてですが、全50問中25問は「ビジネスマナー」全般に関する問題を出题します。他者とのコミュニケーションをとるうえで欠かせない基本的なマナー（挨拶・身だしなみ・言葉遣い等）から、ビジネス活動におけるマナー（接遇・名刺交換・訪問時の所作等）まで、実務に即したシチュエ

ーションによる問題を出题していきます。

次に、(2)についてですが、当然のことながら、新指導要領に準拠した授業における学習可能領域を意識しながら作問していきます。想定する主な科目には「ビジネス基礎」、「ビジネス実務」、「広告と販売促進」等があります。このような科目の学習をとおして得ることのできる、オフィス実務や販売スキルといった専門的な知識・技能に関する検定、という位置づけが確立されることを期待します。

一方、(3)本検定試験で問う知識や技能は、いかなる職業に就く高校生でも将来役に立つような要素が強く、非常に汎用性が高いものがあります。したがって、他の検定試験と異なり、幅広い受験者層を有する検定試験として普及していくことを狙っています。具体的には、商業に関する学科の生徒は勿論のこと、総合学科及び普通科等で学ぶ就職希望の生徒の受験も視野に入れており、副読本その他の教材を活用することにより多くの生徒が十分に合格できるようなレベルの作問を考えております。

本検定試験の概要については、全商協会のWebサイトやリーフレット等をご覧ください。検定試験は1種類のみ（いわゆる級なし検定）ですが、筆記試験だけではなく、面接試験（集団面接）も課すという点では、本協会主催の検定試験の歴史上、実に画期的なものであります。

近い将来に社会人としてビジネス活動に取り組んでいく生徒たちに対して、職場において円滑にコミュニケーションを図ることができるための知識や技能をしっかりと身につけさせることは、私たちに課せられた大変重要な使命でもあります。是非とも本検定試験の導入意義を御理解いただき、本検定試験を生徒への指導にお役立ていただければ幸いです。

なお、第1回ビジネスコミュニケーション検定試験は、平成25年7月28日（日）に実施します。それに伴い、平成24年度は、7月22日（日）に第0回試験（試行試験）を実施し、その結果を受けたくえで、次年度以降円滑な運用ができるよう準備を進めていきたいと思っておりますので、重ねて本検定試験に対する御理解・御協力を賜りたいと存じます。